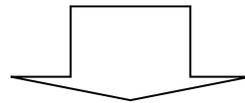


	育てたい力	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。 漢字を正しく丁寧に書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ文章を読んでも文章のどこに注目するか、どのような思考や感情、経験を結び付けて読むかによって一人一人に違いが出てくるので、これらを交流する時間を設けることで、互いの感じたことや考え方を理解し、他者の感じ方などのよさに気付くことができるようにする。 漢字ドリルを活用し、宿題や小テストの実施を通して着実に活用できるようにする。また、文や文章を書くときは、学習した漢字を使う習慣が身に付くようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料活用の仕方において、表やグラフ・地図などの読み方や、読み取った数値や事象を活用して考え表現し、それらを応用できる力を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の動機付けが図れるような身近な題材を取り上げた表やグラフ、地図などを定期的に授業の導入で活用し、読み取りや考察におけるスキルの向上を図る。 意欲的に学習に取り組むことができるようにするために、単元の始めに児童とともに学習問題を作ることで見通しをもって学習に臨めるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を確認しながら、課題に取り組むこと。 自分の考えを言葉や図に表して、ノートに表現し、分かりやすく相手に伝えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題は何か、求めているものは何か、を意識させながら繰り返し指導していく。 説明の仕方の話型や、分かりやすくまとめられているノートを提示していくなどの指導を行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察や実験に意欲的に取り組み、事象を「比べて」見たり、考えたりすること。 観察や、実験の結果からどんなことが言えるのか、自分の考えをまとめて伝えていくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想を立てる時は、なぜそう考えたのか、理由も付けるようにする。 実験・観察においては、「比べてみる・考える」という3年生の視点を意識して発問したり指導したりして、理科的な物の見方を育てていく。 板書において、課題→予想→実験→結果→考察の基本的流れを明確にし、論理的な思考を視覚的に補って、繰り返し指導していく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力に適した課題をもって、それを達成するために必要な力や動きを身に付けるように工夫できるようにすること。 決まりを守って楽しく仲良く運動に取り組み、互いに助言し合うことができるようにすること。 	<ul style="list-style-type: none"> グループでできばえを見合う場、助言し合ったり作戦を練ったりする場など、運動の特性に合わせて児童同士が関わる場を設ける。 話し合いの軌跡をたどることができるように、運動量に影響が出ないように配慮しながら、学習カードを積極的に活用する。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ねらいとする価値に対する自分の考えをもち、交流する中で、理解を深めたり、実生活につなげたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の始まりと終わりでねらいについての自分の考えが深まったり、変化したりしたことが分かるような板書の仕方にする。また、教材をたどる板書ではなく、児童の気付きを中心に黒板に記録していく。 考えたことや実生活に生かそうとする心情を読み取ることができるように、感想カードなどに記録を残す活動を行う。
総合	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決のために集めた情報をまとめ、互いに分かりやすく伝え合うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなに伝える方法として、劇・紙芝居・クイズ・ペープサート、新聞などの手段があることを指導していく。各グループの良いところをみんなの前で紹介するなど、学びを広げる場を確保する。

外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 自分の身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取ること。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな色や食べ物、持ち物など自分の身の回りの物を表す語句を、イラストや写真などを提示しながら、聞き取れるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> すすんで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら様々な音楽に親しむこと。 音楽表現を工夫し、どのように表すか思いや意図をもつ。 曲想と音楽構造の関わりにきづき、表したい音楽表現をするための技能を身につけること。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時のねらいを明確にし、個人の学習活動を保証すると同時にペア学習を取り入れる。 普段より音楽的な語彙を増やせるよう、児童の発言を生かした言葉や音楽表現を表す言葉の掲示物を配慮する。 リコーダー学習を中心に、教材を作成し、ステップアップを図れるよう見とる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 身近な材料から造形的な活動を思いつき、すすんで手や体全体を動かし工夫を重ねること。 安全に配慮すること。道具を大切に扱うこと。 身近にある作品から、造形的なよさや面白さを感じ、自分の見方や感じ方を広げること。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に選び取り、何度も試したり作り変えたりすることができるように材料を豊富に用意する。 道具の扱いについてのルールを最初に確認し、徹底する。 鑑賞の時間を題材の途中で数回取り入れる。鑑賞者が感じたことが作者に伝わるよう、形態を工夫する。



	成果○ と 課題▼
国語	
社会	
算数	
理科	
体育	

道 徳	
総 合	
外 国 語 活 動	
音 楽	
図 工	